

## 角館高校の教育実践報告

本校では昨年に引き続き韓国の明文高等学校との交流事業を実施いたしました。今年は1月22日から25日までの日程で22名の生徒さんが来校し、武家屋敷を見学したりスキー授業などを体験したりしました。短い交流期間ではありましたが、双方の国の生徒さんにとっては忘れがたい時間となったようです。今回はホームステイを引き受けて下さったご家庭の方々のご感想をとおして、交流の様子を紹介します。

2泊3日ということでホームステイをお受けしたのですが、言葉の違いや文化の違いの不安もありました。情報センターから韓国語の本も借りてきました。そして受け入れ。家族が少ないということで2人の学生が我が家にお見えになったわけです。来てからは身振り手振りとかたどたどしい英語を使いコミュニケーションを取りました。子ども達はとても礼儀正しくてさわやかな子達でした。あつという間の2日間でした。毎日何の変化もない我が家に新しい風が吹いていた気がします。そしてこのような機会を与えてくださったことに感謝します。カムサハムニダ

今回初めてホストファミリーになって韓国の生徒が我が家に来ることになり、しかも英語でしかほとんど話せないということでちゃんと話が通じ合えるか不安でした。最初は日本語で明るく笑顔で挨拶してくれたので、ほっとして何とか自己紹介をして和やかな雰囲気になりました。思っていた以上に家の娘が英語で一生懸命会話をされていて、驚いたり笑ったりしている様子を見て「こんな事は滅多に出来ない。いい機会を与えてもらったなあ」とつくづく思いました。旅の疲れも見せずにはげげに明るく振る舞っている彼女を見て、2泊3日の我が家のホームステイも楽しく充実したものにしなさいと思いましたが、食事の面では慣れない日本食のせいとかあまり進まなかったようですが、2日目の夜に焼き肉をしたら、気に入ってくれたらしく食べてくれたのでほっとしました。あつという間に2泊3日が過ぎてしまい、お別れの時が来たらなんだか寂しくなりました。たくさんの良い思い出が出来て我が家にとっても、一生忘れられない良い経験になりました。

学校から「韓国の高校生をホームステイさせてもらえないだろうか」という話があり、悩みました。学校からは「子どもが泊まりに来たと思う程度の意識で受け入れて貰えればよい」ということでしたし、我が家の二女が、一昨年、町の海外研修事業でオーストラリアの家族に短期のホームステイをしたことがあったので、その時の恩返しつもりで受け入れを決意しました。

最初は学校からいわれたとおり、一般の日本の家庭の雰囲気味わって貰えればと思っていましたが、受け入れの日が近づくにつれて次第に「あれもしてあげたい」「これもしてあげたい」という気持ちが大きくなり、親の方が興奮してきました。

1月23日は「どんな人が来るのかな」と緊張しながら迎えに行きましたが、その辺にいる日本人と何ら変わりがなく安心しました。けれども相手は韓国人。私たちはハングルは全くわからないし、相手は日本語が全くわからない。娘の乏しい英会話能力だけが頼りで、これから3日間どうしたらいいものかと不安で一杯になりました。

最初はお互いに緊張して、身振り手振りでコミュニケーションを取っていましたが、「案ずるより産むが易し」ではないが、次第にうち解けて英語で意思疎通をはかっている娘が頼もしく感じられました。2日目の夜には、時間の経つのも忘れ家族みんなで楽しい時間を過ごし、気がつけば深夜になっていました。

たった一人で外国人の家にホームステイし、全く頼るものがなく心細かったと思いますが、「鄭 收演」あなたは偉かった。あなたにとってはかなりのカルチャーショックだったでしょうが、受け入れ側の我が家でも良い意味でのカルチャーショックを感じ、我が家の子供達にはよい経験と刺激になったと思います。

今回このような機会に恵まれたことに感謝しております。「鄭 收演」が帰った後しばらくは、家族が一人減ったような気持ちになりましたが、またいつか会える日が来ることを楽しみにしています。



角高生と一緒に作ったさつま汁おいしかったな。(調理授業体験)



韓国では珍しい雪とひととき戯れました。(雪遊び体験)